



エッセイ

複数言語環境で育つ子どもはどのように ことばと出会い、ことばをどう意味付けるのか

5歳までの育児記録から

河上 加苗*

© 2017. 移動する子どもフォーラム. <http://gsjal.jp/childforum/>

1. ことばってどうしてます？

ある日、ベビーカーに息子を座らせ、バスに乗り込んだ。すると、私たちより前にバスに乗っていたベビーカーがあり、そこには、息子と同じぐらいの年齢の女の子が座っていた。当時息子は2歳前後であった。その女の子は、外見からダブルであることは容易に判断できた。「(年齢)同じぐらいですかね？」どちらからともなく会話がはじまった。そして、会話は続いた。

「パパはどちらから？」

「ことばってどうしてます？」

「この子、動詞は日本語。名詞はペルシャ語なんですよー」

この「ことばってどうしてます？」という表現は、複数言語環境に育つ子どもを持つ親たちをつなぐ表現であると私は感じている。この表現は、「今日はいい天気ですね」と同じくらい話題を広げやすい表現であり、同時に、親たちの共通する大きな関心事の一つが「ことば」の教育であることを物語る。この表現で、初対面の人とでも、いきなりその家庭の教育方針や両親たちの教育観に関わる話題が展開できるので、私はこの表現を特別に感じ、大切にしている。

* 早稲田大学大学院日本語教育研究科 (Eメール: kanae_kawakami@toki.waseda.jp)

2. 複数言語環境で育つ子どもたちの「親」になって

私には、子どもが二人いる。ルードビック（仮称）は6歳になる。ハイディ（仮称）は3歳である。二人とも、日本国内で複数言語環境で育つ子どもたちである。

私は、幼少時代を複数言語環境で育った訳ではなく、家庭では、関西弁、秋田弁を耳にすることはあったが、日本語以外の言語が常に周囲にある環境ではなかった。外国語として英語学習の環境をつくる程度であったと言える。そんな中、海外で「日本人」「日本語を話す私」のアイデンティティに気づく経験を得てから、日本語教師という職業に関わりはじめた。その中でも子どもの日本語教育に関わり始めたのは十数年前からである。その私が縁あって、複数言語環境で育つ子どもの親になった。

子どもたちの父親は、ヨーロッパから日本へやってきた。彼は八つの言語を理解するマルチリンガルであり、幼少時は「移動する子ども」であった。ヨーロッパでは多くの国々が隣接し、常に人・モノ・情報が容易に移動する環境であるため、彼の生き立ちはそれほど特殊ではないのかもしれない。彼は、カタルーニャ語を母語とし、スペイン語も生活の、そして人生の一部として育った。初等・中等教育は、ドイツの学校に通っていたため、生活言語も学習言語もドイツ語だった。高等教育は、出身国の大学およびドイツへの留学と国・言語を移動しながら修了している。もちろん、学生時代には、英語、フランス語、その他の言語を外国語として学んだ経験をもつ。日本語は日本に来てから学び始めた。現在は、仕事で英語・日本語・ドイツ語を状況や相手によって常に使い分け、家庭では、スペイン語・カタルーニャ語・日本語・英語を使用する環境にいる。私とは、スペイン語・日本語、たまに英語、ルードビックとは日本語を中心にカタルーニャ語を混ぜながらやりとりをし、ハイディとは主にカタルーニャ語でやりとりをしている。

現在、息子のルードビックは日本語で考え、話し、文章を書いている。カタルーニャ語は聞いて分かるものもあるという様子が見られるが、言っていることが分からない場合や話の内容を理解したい場合、「パパ、日本語で話して」と要求することもある。英語にも関心を持っているため、週に1回英語教室に通い、アルファベットも読み書きができるようになっている。ディズニー・ミュージカルの歌は部分的に英語で歌える箇所もある。また、不定期ではあるが、月に一度、カタルーニャ語のクラスに通い、同じカタルーニャ語を背景に持つ子どもたちと遊びながら、父親の話すカタルーニャ語とは違うカタルーニャ語を聞いている。カタルーニャ語の子どもの歌も時より口ずさむこともある。

ハイディは、3歳で、耳に入る・目に入る、全てのことばを爆発的に習得しはじめている時期でもある。日本語もカタルーニャ語も英語も意識なく理解しよう、話そうとしている様子がみられる。

このような複数言語環境にある家族の一員として、日々の生活を営み、その様子を観察しようとする私がいる。子どもの日本語教育を研究する者として、母親として、複数言語環境にいる子ども自身が、成長していく過程で身の回りにある言語とどのように出会い、その言語に対してどの

ように感じていくのか、そして、その言語についてどのようにメタ的に語っていくのか知りたいと思った。そんな想いもあり、育児記録を始めた。複数言語環境で育つ子どもがどのようにことばに出会い、それらのことばを使って人と関わり、それらのことばをどう意味付けていくのか。ここでは、息子の誕生から5歳までの育児記録から振り返ってみたい。

3. 日本語と日本語以外の言語との出会い

3. 1. 誕生から1歳まで

ルードビックは真冬に日本で生まれた。この日から私達夫婦の複数言語での育児が始まった。私は日本語で話しかけ、主人はカタルーニャ語で話しかけた。その環境が一時途切れたのが3月11日の東日本大震災である。震災後数ヶ月間、私とルードビックは私の実家のある関西に避難した。その間、ルードビックの周囲には関西弁が飛び交い、カタルーニャ語、スペイン語を聞く機会は減少した。

0歳2ヶ月頃から、「あう」「えう」「うんも」「はう～」「あうぐうお」など喃語がよく出てくるようになった。よく目をみて、笑いかけてくるようになり、親子のコミュニケーションができたと感じられるようになった。0歳9ヶ月ごろから保育園の一時保育を利用するようになる。家族以外の人との関わりが増え始め、保育園で使われる言葉、保育士が話しかける言葉を理解するようになってきた。そして、1歳前後になると歩きはじめ、指差しが増え、対象物を指しては注目させ、意志を伝えようとしてきた。

1歳を過ぎると、単語の始めの音をはっきり出すようになったきた。例えば、絵本のだるまを見て「だあー」、「ごちそうさまでした」を「ごー」と言う。また、この時期は、一つの言葉が複数の意味をもつ時期でもあった。例えば、「んっ」で意志表示をしたり、「はい」で複数のメッセージを示しており、親を含めた大人たちが彼の意図を読み取って、彼の意思表示に答えようとしていた。

- やってほしい時、手伝ってほしい時、「んっ」と言って伝えてくる。(1歳2ヶ月 2012年4月3日 育児記録)
- コップに描かれた絵を指差して、「カンガルー」は“カ”，「シマウマ」は“んっ？”って聞いてくる。何回も交互に指差して聞いてくる。(1歳4ヶ月 2012年6月14日 育児記録)
- 「はい」でコミュニケーションがとれる。状況と文脈で伝えたいことが伝わる。家に帰ってきた時、ベビーカーから「はい」（「降ろして」の意味）、ものを指指して、「はい」（「取って」の意味）」(1歳4ヶ月 2012年6月17日 育児記録)

この時期は、日本語以外の言葉はなかなか特記できることがなかったが、発音で気になることがあり記録したものがあつた。

- 日本語にない音“R（舌を巻く音）”を出し始める。保育園でも言われた。（1歳4ヶ月
2012年6月1日 育児記録）

発声機能の発達過程かも知れないが、「パパの影響ですかね？」と保育士と談笑した記憶がある。また、父親とのやりとりの場面で、意味のある言葉としては理解できない音の羅列をすることもあった。

- お水を飲み終わってコップに入っていなかったので、入れ物を指して、「○○×…×○○」（何かの音を出して）、首を振って、ないことをパパに伝えた。（1歳4ヶ月 2012年6月14日 育児記録）

1歳7ヶ月以降は、今思い出しても本当に面白い毎日だった。昨日言わなかった言葉が今日言えるようになり、毎日が初めての言葉を聞く日々だったと記憶している。また、二語文が始まり、物と音と意味が結び始めた時期で、自分の名前を認識し、自分の名前を言えるようになった。

- 「マンマ おいしい」「おいし…かった」（1歳7ヶ月 2012年9月11日 育児記録）
- ことばがあふれた日！「しんかん」（新幹線のこと）。夜には、しんかんせんを何度も繰り返していた。「こちゃ（cocha：カタルーニャ語で「車」のこと）」「でいんしゃ」「しんかん」を分けて使っていた。外に出かける時、私がぼうしを触っていたら「ぼうし」と言う。（1歳7ヶ月 2012年9月13日 育児記録）
- （絵本の花を指差し）「おはな」といったら、ルードビックは自分の鼻（はな）を指で押さえてこっちをみた。（1歳7ヶ月 2012年9月14日 育児記録）

スペイン語のおもちゃでも意味が分かるようになってきたようで、次の例のようにおもちゃの声にあわせて繰り返し発話をしながら遊ぶ様子も見られた。

- パパの家族にもらったスペイン語のおもちゃの音にオウム返しをして遊ぶ。例 “barco rojo”（赤い船）→ばるこ ろーほ，“cocha azul”（青い車）→こちゃ あうー（1歳8ヶ月 2012年10月15日 育児記録）

また、ある形のある事象に見立てて、言葉を発話するようになった。例えば、ホットケーキを食べているうちにどんどん形が変わり、その形を知っているものに見立てて教えてくれた。その時に出てくる言葉は、スペイン語や日本語だった。

- ホットケーキを食べている途中に，“barco”（スペイン語で「船」）という。形が似ているみたい。手でもって、いろいろ方向を変えて、「おつきさ」（おつきさま）「うね」（ふね）“barco”と何回もいながら食べる。（1歳8ヶ月 2012年10月19日 育児記録）

この頃は情報が増え、彼の出会う情報（言葉や知識）が彼の知っている言葉では伝えきれない様子をよくみるようになった。彼なりに言葉を足しながら伝えてくるのが、興味深かった。

- 知っている言葉で伝えようとする。例えば、「ボール」「しんごう」で「ボールをとめて」キックする。（1歳8ヶ月 2012年10月29日 育児記録）

また言語習得過程に見られる言い間違いも多く、「乾杯」のことを「ぱんかい」といって何度もやったり、「ごめんなさい」を「もんかいさん」といったりし、笑いを誘った。

さらに、この頃には、数字も1から10までは部分的に言えるようになり、書かれたものにも興味を持つようになっていた。例えば、TOTOの「O」を見て0（ゼロ）といたり、保育園で誕生日用にもらった花飾りに「ルードビックくん、2さい、おたんじょうびおめでとう」と書いてあると、何を書いているのか気になり、指差す。一文字ずつ読んであげると、書いてある通りに繰り返して言うこともあった。

3. 2. 2歳から3歳まで——「ニュー日本語」, 「パパのことば」と「ママのことば」

1歳後半から2歳前半は、助詞を使った表現も見られるようになってきた。

- 助詞の「と」を使う。「〇〇とパパ」(1歳10ヶ月 2012年12月18日 育児記録)
- 「コップのパパ おちゃ」(2歳0ヶ月 2013年2月3日 育児記録)
- 「パパとルードビックと こうえん ばいばい」(2歳2ヶ月 2013年4月27日 育児記録)

2歳前半は、話す言葉が単語から単文へ、単文から複文へ、助詞の使用、時制を使った表現などがよく使われるようになった。時制の表現も出てくるようになったが、表現は時制とは必ずしも一致していなかった。「明日」「今日」「昨日」を意味に関係なく自由に並べて話す時期があり、その後は、過去のことを全て「昨日」で表す時期があった。また、何にでも「かった」を付けたり、「したよ」で過去形にする時期もあった。

- 「きのう、赤リンゴちゃん ばいばい」(先週末の出来事)「きのう たくしー のった」(数日前の出来事))(2歳2ヶ月 2013年4月17日 育児記録)
- 「ママ だっこしてもらう かった」と過去形で自分の今の希望を伝えてくる。(2歳6ヶ月 2013年8月5日 育児記録)
- 一日の出来事を話す。「きのう さかな したよ」(今日(昼), 鯉のぼりつくったよ), 「こうえん いったよ まってまって したよ」(2歳3ヶ月 2013年5月7日 育児記録)

カタルーニャ語もふいに彼の口から出てくるようになった。言葉を発し始めた頃から、父親とエレベーターに乗る度に通過する階をカタルーニャ語で言っており、父親がいなくてもエレベーターのボタンを見ながら、数字をカタルーニャ語で読む様子が見られた。言葉遊びも見られた。食パンの耳をいつも食べないので、「パンの耳も食べてね」と言うと、パンの耳を自分の耳に近づけてケタケタと笑うこともあった。この時期は、夢の中でも多くの言葉が溢れているのか、寝言も増え、「やまてせん」(山手線)ということもあった。

2歳後半になると、父親のことばと母親のことばが違うことに気づき始めたようだ。そして、この時期は、環境が大きくかわり、彼にとっては刺激に溢れた時期でもある。妹のハイディが産まれ、家事を手伝ってくれる英語話者のシッターさんも来るようになった。家庭では英語でやりとりする場面が増え、幼児の通信教育のDVD教材に英語の歌が入るようになった。3歳からは幼稚園に入園し、ほぼ毎日父親と登園し、父親と話をする機会が増えた。園では、たくさんの友達に囲まれ、毎日同じ先生たちと会話をし、週に1回、園で英語を話す先生と一緒に遊んだ。週

末は、英語教室にも通いはじめ、彼の周りのことばが、量・質共に飛躍的に変わった時期でもある。

- 英語のアルファベットを見ると、ABCの歌を歌い始める。(2歳6ヶ月 2013年8月7日 育児記録)
- 「ばなりーじょ (panarillo)” は パパ」「おむつ” はママ」と言って、ことばの違いがわかる。(2歳7ヶ月 2013年9月18日 育児記録)

日本語と日本語以外の言葉を使い分ける様子も見えてきたので、この頃は私も意識的に彼がどれくらいカタルーニャ語を理解しているのかを問いかけることを増やした。

- 「“nas ナス” って何？」 - 「鼻だよ」。「“こちゃ” (cocha) って何？」 - 「トラックだよ」(2歳9ヶ月 2013年11月21日 育児記録)

二つの単語の翻訳ができていようだが、限定的な意味になっている場合もあった。「こちゃ」(cocha) はカタルーニャ語で車の総称だが、ルードビックが限定的に意味付けをしている。また、長い話も理解できるようになっている様子が見られる反面、分からないのに答える様子も見られた。

- パパに「テーブルから落ちたものを食べない」とカタルーニャ語で言われて、そのあとにルードビックに「パパはなんていっていたの？」と聞くと、「したのたべものはたべないで」って言ってるよ」と答える。(3歳0ヶ月 2014年2月7日 育児記録)
- 保育園の帰り道、豆まきもしたあと、「今日の cole (コレ:保育園) はどうだった？」とカタルーニャ語で聞くと、「コレだった」と答えたいらしい。(3歳0ヶ月 2014年2月3日 育児記録)

この頃は、彼が自分で組み立てた言葉も多く、夫婦で「ルードビックのニュー日本語」と笑いながら記録していった。

- 「ルードビック, OK?」 - 「おっけくない」(2歳9ヶ月 2013年11月21日 育児記録)
- ごっこ遊びの時、「何くださいかー」(何がほしいですか)「こまりましたー」(かしこまりました)(2歳10ヶ月 2013年12月12日)

この他にも、この時期には、わからない表現、思い出せない表現を自分の知っている表現で補って伝えようとしていた。例えば、仲のいい友達の写真をみて、今度いつ友達の家に行くのかを聞きたいのだが、「いつ」と聞けない。その時に、「なんじからいくの？」と聞くこともあった。「ルードビックのニュー日本語」は他にも次のような例がある。

- 「何ページのバスにのっていくの？」(「何番のバスに乗って行くの？」の意味)(2歳9ヶ月 2013年11月23日 育児記録)
- 「二つ」という言葉をいいたいが分からないとき、「いち に たべる」という。(2歳10ヶ月 2013年12月12日 育児記録)

3歳前半になると、話も一まとまりが長くなり、時系列に話せるようになってきた。自動詞・他動詞、受身、使役など、様々な言い方が間違いながらも出てくるようになった。次の例のよう

な授受表現はなかなか上手く言えないので、話の主旨が伝わりにくいことも多かった。そして、擬人化した話し方もよく見られるようになった。

- 「ママにしてくれるのー」（「ママがほくにする」という意味）「ルードビックしてくれるのー」（「ほくがする」の意味）（3歳0ヶ月 2014年2月7日 育児記録）
- かんしゃくを起こしたり、嫌になってしまうと「これ、こわれたい」（「壊したい」の意味）（3歳3ヶ月 2014年5月5日 育児記録）
- 「くもくんが、ひるをたべてるんじゃないの？」夕暮れの空をみながら一言。（3歳6ヶ月 2014年8月16日 育児記録）

この時期は日本語が飛躍的に伸びて、複雑になり、言葉がどんどん溢れてくる様子が見られたが、一方、カタルーニャ語は引き続き、単語のみで、いつも使っている語ぐらいしか彼の口からは出てこなかった。しかし、話をする時のジェスチャーが、両手を広げて「言ったよー」「なかったよ」「そうだったの」と話す様子がみられ、話し方や仕草に複数言語環境にいる影響が見られた。

3. 3. 4歳から5歳——英語人、ルードビック語、〇〇語

この時期は、幼稚園の年中、年長にあたり、園で読む本や先生たちとのやりとりも複雑になってきた。日本語の表現がより複雑になってくる過程で、不思議な日本語をよく聞くようになった。私達親は、「ルードビック語」と呼んで楽しんでいた。

- 「この道くるまあんまり少なく通るんだよね。」（「この道あまり車が通らないよね」の意味）（4歳1ヶ月 2015年3月15日 育児記録）

また、言葉が増えた分、音が似た単語にも反応が見られた。

- 「ママ あした こわいの。」－「どうして？」－「あした フンカ。山から石がね…」－「?? あーそっかー。明日は文化の日ね！ ルードビックが言ってるのは噴火ね～。似てるけど違うよね」（4歳9ヶ月 2015年11月2日 育児記録）

日本語の習得が進んで、語彙量が拡大していく一方、似た語彙の違いがまだ十分に伝えられない様子も見られた。例えば、「つまさき」という言葉を覚えてから、先端のものを全て「つまさき」と呼ぶ様子が見られた。怪我をした時、壁の角を指差し、「ここでぶつけたのー このつまさきだよ」、またある時は、妹のハイディとお布団の歌を歌う時に、布団の四隅を持って、「違うよー ハイディちゃん、このつまさきをもつんだよー」などの語句の使用状況も散見できた。

そして、4歳後半からは「〇〇語」でどういうの？という発言がよく見られるようになった。

- 「“日本”はスペイン語でどういうの？ “スペイン”はスペイン語でどういうの？ “アフリカ”は？」。教えた後、「ハポン～」「エスパーニャ」を何度も繰り返し、覚えては、忘れ、忘れては何度も質問を繰り返し。園の友達に教えたいみたい。（4歳9ヶ月 2015年11月13日 育児記録）

5年間の記録の中で、成長に合わせて日本語の表現がより複雑になってくる以外に、大きい変化が三つみられた。

一つ目は、外見の違いにも反応が見られるようになったことである。ある日、降園途中に、外見からダブルだとわかる姉妹が道で遊んでいた。遠くからそれを見つけたロードビクが「あ、英語人だね」と言った。またある日には、外国語で話している一団とすれ違った時、「今、英語の音聞こえたね。」と言ってきた。話していた言語は英語ではなかったが、彼には英語人に見えたのかもしれない。幼稚園に入り、園内で週に一度英語のクラスもあり、それ以外にも英語教室に通い始め、幼児教育のDVDでは英語の歌が聞こえ、家には英語を話す人達がやってくる。「英語」と呼ばれる言葉が彼の周りに溢れ始め、その言葉を話す人が彼の社会にやってきた。彼の社会が広がる中で、外見が少し違う人、言葉が違う人たちがいるのが分かり始めてきたように思える。彼の発する言葉にも、英語が出てきたり、英語と日本語を比較する様子も見られた。

- 宿題プリントの物の数を数えるとき、いきなり英語で **one two three four** と数え始める。
(4歳10ヶ月 2015年12月5日 育児記録)
- 「ろうど (ロード)」と「どうろ (道路)」。日本語の反対が英語だね～ (4歳11ヶ月 2016年1月11日 育児記録)

二つ目の大きい変化は、スペイン語で話す親たちの会話に関心を示し、分かる単語から内容を類推しようとする様子も見られるようになったことである。ある日、幼稚園からの帰り道で「○○○ (ファミリーレストランの名前) へ行くんでしょ?」と言ってきたので、理由を聞くと、「朝、言ってたでしょ?」と言う。思い出すと確かに、朝、私が父親とスペイン語で話をしていた内容であった。この頃から、親同士の会話を知りたいという気持ちが出てきて、事ある毎に、「今、何の話?」「なんて言ったの?」と聞いてくるようになった。

一方、カタルーニャ語は、ほとんど変化が見られず、よく使っていた“cocha”も「車」や「自動車」という単語に変わって、彼の口からは出る事は少なくなり、私達が家庭内の共通語として使う程度だった。父親との会話でも、勘で答えている様子もよく見るようになった。

- 夕食時に、パパがロードビクに公園で会った友達について「保育園のお友達? 幼稚園のお友達?」とカタルーニャ語で聞いた時、日本語で「保育園」と答えた。その後に、私が「パパはなんていったか分かった?」と聞くと、「うん、ハイデイがどこにいたのかをきいてたから、保育園って言ったよ。」と答えた。分かっていなかった。(5歳2ヶ月 2016年4月23日 育児記録)

父親とのカタルーニャ語の会話では勘で答えている様子も見られるが、親同士の会話には興味を持っている様子が見られたのはこの時期の大きな変化である。きっと親同士の会話には、彼が知っておくといいことがたくさんあると思ったのかもしれない。

日本語が強くなってきたなど感じる中でも、突然、日本語以外の言葉が出てくることもあった。お菓子の袋が開けられないとき、私に向かって、「おーぺん ぷりーず (open, please)」といきなり英語で伝えてきた事もあった。その時、彼の英語教室での様子がはっきりと目に浮かんだ。

毎回スナックタイムが楽しみだ→食べたいのに袋が開けられない→大人に頼むしかない→教室にいるのは英語の先生→さあ、なんて言おう→みんなが「open, please」と言ってる。開けても

らっている。これか！→「おーぺんぷりーず (open,please)」

きっと、必要に迫られ覚えた英語なのだろう。このエピソードは、私に次のようなイメージを持たせた。

彼には大きな「言いたい袋」がある。その袋にはいくつかの穴が空いている。大きな穴、小さな穴、塞がっているかどうかわからない穴。外から開けられたか、中から開けられたかはわからない穴。ある日、ある時、その穴が空いた時と同じ状況が現れた。すると、言いたいという想い(圧)が加わり、「英語」と書いてある穴から、ぽんっと空気のように英語が飛び出した。言葉と状況の結びつきが強いと感じたエピソードだった。

三つ目の大きな変化は、彼自身が自分のこと、自分の環境について他者に語り始めたことである。この時期は、自分の生い立ち、自分の父親のこと、家族のことを他者に語り始める様子がよく見られた。そして、その会話には彼の得た新しい情報がよく組み込まれていた。親に聞いた事、先生に聞いた事、ニュースで見た事、本で読んだ事、全部が彼の「言いたい袋」に入っていた。

ある日、初めて話した人にこう言われた。公園でたまたま会う親子で、子どもはルードビックより幼いダブルの子だった。

- この前、パパはスペインだよって聞きましたよ。パパはたくさんの言葉がわかるんですね。この子のパパは？って聞かれたので、ドイツだよっていうと、ドイツってフランスの上でしょ、って言われて、すごい！って思ったんですよ。(5歳1ヶ月 2016年3月22日 育児記録)

この頃、彼は地図に夢中になっていた。スペインへの帰省の際に、飛行経路に大変興味をもっていたため、私達親もよく地図を見せて説明をしていた時期でもある。トランジットした国や都市をきっかけに、行ったことがある国、父親や母親が行ったことがある国や住んだ事がある国など印を付けながらよく見ていた。このようなやり取りが家庭で繰り返され、ある日、彼の「言いたい袋」からことばが飛び出した。

5歳になった彼は、複数言語環境で育つ子どもを持つ親が「ことばってどうしてます？」と聞く前に、自分の環境について、自分の使えることばで他者に伝えるようになっていた。

4. 5歳までの育児記録を振り返って

この育児記録は、複数言語環境にいる子ども自身が、成長していく過程で、身の回りにあることばをどのように学び、どのように語っていくのか、そして、それらのことばをどう意味付けしていくのかという子どもの主観的な意識をみたいという想いから、記録していったものである。

誕生から6歳になるまでの5年間を振り返ってみると、子ども自身は、父親が他の国から来ていること、家庭で使っていることばが複数あることは感じているようだが、まだ、そこにあることばへの彼自身の意味付けはしていないように思える。彼の身の回りにあることばは、2歳後半まで

無意識に、身近な生活場面で、親や周囲の大人や友達との繋がることばとして、複数の言語に出会っていったと思える。そこには、「〇〇語」という大人の世界で意味付けられた言語ではなく、親と繋がることば、身近な他者と繋がることばがあり、必要な時がきたら発話をするという繰り返してであったと思う。その後、周りの大人たちがそのことばを意味付けた。自我が目覚め、自分から言語的な世界を広げていく年齢になる前のこの時期は、人から聞いたり、人からどう見られているかが、そのまま子ども自身の見方や考え方に影響しているように思える。実際、私たち親は、彼のことばを「ルードビックのニュー日本語」、「パパのことば」、「ママのことば」、「ルードビック語」、「〇〇ちゃんのことば」、「〇〇くんのパパのことば」、「日本語」、「カタルーニャ語」、「スペイン語」、「英語」と意味付け、彼自身も同じようにその呼び方を使っていったように。

この育児記録では、私たち親は観察者のように存在しているが、これらの記録の背景には、語りきれない親の主観的な意識もあった。私も彼の父親も複数言語で育てようとする意識を持つ、主体として存在していた。子どもに何語で語りかけるのか、家庭で何語を使うのか、シッターとして誰を選ぶのか、なぜ英語教室に行かせるのか、なぜカタルーニャ語教室に行かせるのか、どこの幼稚園を選ぶのか、どこの小学校に行かせたいのか。それ以外にも意図的、戦略的に、彼の生と、私たち家族の生に組み込んできた営みがあり、複数言語環境における選択は、常に「育児」と共にあった。稲垣（2016）は「複言語育児」という分析概念を提起している。「複言語育児」とは「複数言語使用者である親が、複数言語を使用しつつ、social agentとして自らを取り巻く社会集団と様々な関係を構築することにより社会参加し、アイデンティティを更新しつつ実践する育児の行為」（p. 4）を指しており、「単に複数言語を介して育児を実践する「行為」を指すだけでなく、家族の過去の歴史や親の人生、家族の願望、将来の計画等と全て包括した「思い」をも含むものであ」（p. 4）るとしている。私たち親も、ルードビックへの「育児」を通して、現在と自分たちの歩んできた過去を絶えず往還し、将来の有り様を考え、考え直し、また、成長する子どもの、その時々と言動を受けて、再度親たちの過去を意味付けし直しながら、彼の将来、家族の将来の有り様を常に再構築してきたと言える。

これからルードビックは小学生となる。親と離れたところで自分の周りにあることばを意味付けしていくようになるだろう。成長とともに彼は自分の複数言語環境やそこにある言語をどのように意味付けていくのだろうか。周りの大人たちや友達のまなざし、発せられることばの数々は、彼の言語的な世界にどのような影響を与えていくのだろうか。その時、複数言語環境を作ってきた私達親は何を考え、子を育ててくのだろうか。

こうして、私たち親の「複言語育児」は続いていく。

文献

稲垣みどり（2016）. 「移動する女性」の「複言語育児」——在アイルランドの在留邦人の母親達のライフストーリーより『リテラシーズ』18, 1-17. <http://literacies.9640.jp/dat/litera18-1.pdf>